

## パレスチナにおける市場志向型農業 <その5>

### サイレージ製造と利用

プロジェクト対象地域の畜産経営においては、生産コストの中に占める飼料代の割合が極めて高く、多くの畜産農家が改善を望んでいる。一方、圃場の作物残渣やナツメヤシ葉といった貴重な有機物資源が利用されずに放棄されている。こうした状況において、プロジェクトではサイレージの導入による飼料代節約と乳量等家畜への影響を検討することとした。

当初、農家に対するサイレージ製造技術のトレーニングやサイレージの効果に関する農民の理解促進を目的として、対象地域においてフィールドデイを実施した。バンカー型とバレル型と呼ばれる2種類の技術を紹介すると共に、飼料の適用プログラムや製造コスト、収益性についての説明に力を注いだ。意欲的な農民グループにおいては、製造したサイレージを用いた給餌試験も実施した。その結果、家畜にサイレージを与えることにより、飼料代を削減しつつ、乳量の増加が期待できることも確認された。こうした給餌試験の結果は、その後のサイレージ製造に係る活動においても紹介され、影響を受けた農家は、サイレージ作りに積極的に取り組むようになった。



サイレージ製造フィールドデイ

上記活動によってサイレージの効果は対象地域の農民達によって確認され、地域におけるサイレージ製造活動が活性化された。しかしながら、製造されたサイレージの活用方法は農民間で大きな差があったため、サイレージを利用した場合の理想的な給餌体系を確立するための実証試験が必要となった。この場合、農家レベルで実施可能な試験とすべく、従来の給餌体系の干し草部分をサイレージに置き換えるだけの大幅に単純化した手法を基本とし、データ収集も農家に依頼した。この結果、飼料中の干し草部分をサイレージに置き換えることによって、飼料代を約45～50%削減できることが明らかとなった。

対象地域においてはドナーから供与された機材が壊れたまま放置されている場合が多く、オーナーシップの醸成が重要と考えられた。そこで、プロジェクトではサイレー

ジ製造機材の貸出システムによる共同利用を推進し、持続的な維持管理体制の構築を進めた。従来型機材の利点・欠点や農家の製造実績に関する現地踏査の結果に基づいたスペックを持つ機材を調達し、下図に示すハーベスター、コンプレッサー、ミニトラクターを機材セットとして供与した。機材セットの所有権は農業局とし、共同利用契約を農業局と結んだ農民グループが使用权を有することとした。機材使用に当たっての調整は普及員が行い、機材の保管ならびに維持管理は原則農民グループが行い、維持管理費用は機材の利用料金として利用者から徴収する制度とした。



収穫機

圧縮機

台車

サイレージ製造のための機材セット



ナツメヤシ葉の粉碎

プロジェクト対象地域においてはナツメヤシの栽培が盛んであり、毎年大量のナツメヤシ茎葉が剪定されている。これらは貴重な有機物資源であるにもかかわらず、現在は多くは焼却されている。ナツメヤシの茎葉が効率的に粉碎できれば、コンポストやサイレージの原料として有効に利用できる。そこで、プロジェクトでは竹や木材の粉碎が可能な日本製の竹粉碎機を導入し、ナツメヤシ茎葉の粉碎に多大なる効力を発揮することが実証できた。この粉碎機についても、持続的な維持管理が極めて重要な課題となる。多くの農民グループがプロジェクトを通して機材の適正な維持管理の重要性を認識し、地域資源の有効活用を実践し、そのことが地域住民の生計向上につながることを祈っている。